

授業概要

明治維新前後から、1960 年あたりまでの日本文学の流れをたどり、この時期の文学の歴史を講義していく。最低限の文学史の知識を身につけることが第一目標であるが、そのためには、文学史と密接に関わる日本近代史の知識も必要であり、また、自ら多くの文学表現に直接触れ、実感することも必要である。授業時間外の各自の自習によってそれらを補うことが望ましい。授業では 3～4 つの課題作品を指定するのでそれを読むこと。その内容を小テストによって確認する。この小テストは 4 回行う。

授業計画

第 1 回	ガイダンス／近代とは何か
第 2 回	近代文学の誕生
第 3 回	紅露時代・硯友社時代
第 4 回	自然主義文学の展開・反自然主義
第 5 回	反自然主義文学の展開①
第 6 回	反自然主義文学の展開②／プロレタリア文学の勃興
第 7 回	アヴァンギャルド芸術の波／新感覚派の登場
第 8 回	プロレタリア文学の展開
第 9 回	三派鼎立／〈文学〉の大衆化
第 10 回	新感覚派の展開
第 11 回	文芸復興・転向文学
第 12 回	戦時下の文学／〈外地〉の日本語文学
第 13 回	文学の再建／戦後派の登場
第 14 回	第三の新人／純文学の変質
第 15 回	まとめ
第 16 回	試験

到達目標

- ①明治期から 1960 年あたりまでの日本文学の流れを、様々な事象と関連させながら理解する。
- ②文学表現に多く触れ、鑑賞、理解し、さまざまな表現、認識方法を知る。

履修上の注意

欠席しないこと。特別の理由がない限りすべて出席するのが前提である。
その他のルールは最初の授業で示す。

予習・復習

- 【予習】小テスト時には、決められた作品を当日までに読み終え、自分なりの感想、疑問を考えておくこと
【復習】その日の授業の流れを自分なりに整理し、説明できるようにしておくこと。

評価方法

授業内小テスト 50%、期末試験 50%を目安に判断して評価する。

テキスト

- 【テキスト】プリントを使用する。ただし小テストで取り上げる作品は各自入手すること。
【参考文献】安藤宏『日本近代小説史』中公選書、2015 年